

活動名（教科） 情報モラルってなあに？  
 対象学年 高学年（4・5・6年）  
 実施期間 年中（今回は、6月に実施）  
 実践者（所属） 山口 嘉徳（苅宿小）



1. 指導にあたって

(1) この単元の特徴や指導の難しさ

- 情報モラルを耳にすることはよくあるが、一体、どのような内容を指導すればよいのか迷ってしまうことがあるので、そこで、情報モラルについて広く浅く知る機会を設けた。
- 情報モラル教育は、学校の指導だけでは難しく、家庭の協力を求めるため、授業参観にこの学習をぶつけ保護者も参加型の授業を考えた。

(2) それを克服するための ICT 機器やメディアの活用（利用の意図と工夫）

- 情報モラルの教材を開発することが難しい。そこで、今Web 上にあるコンテンツを生かして情報モラル指導を試みた。（「情報モラル研修教材 2005」独立行政法人教員研修センター）  
[http://sweb.nctd.go.jp/kyouzai\\_new/index.htm](http://sweb.nctd.go.jp/kyouzai_new/index.htm)
- Web 上にあるこのコンテンツは、児童に情報モラルの危険な事を疑似体験できる教材となっている。操作も、マウスをクリックするだけで体験できるようになっている。

2. 単元の主な目標

- 情報モラルについて、どんな危険がどのような時に起こりうるか疑似体験を通して考える。

3. 指導計画の概要（1時間）

時間	学習内容	児童の活動（利用メディア）	指導の留意点
5	「除法モラル研修教材 2005」の開き方を確認する。	独立行政法人教員研修センター「情報モラル研修教材」	コンピュータ40台を一斉にアクセスするとダウンロードに時間がかかる場合は、事前に教材をサーバー等にダウンロードして活用する
5	コンテンツの中身を確認する 事例を体験するの一例 「アイドルの〇〇がくるって」「オンラインショップ」「検索サイト」 「おもいがけない請求が来た」「出会いメール」「ワン切り」 「ゲーマーズパラダイス」「もうかる話です」「突然のメール」 「友だち探しチャット」「自作ホームページ」「誰でも当たる懸賞」 機能を体験するの一例 「掲示板」「チャット」「ネットショッピング」「オークション」		子どもが操作するのと一緒に保護者も一緒に見てもらったり、同じコンテンツを空いているコンピュータで体験してもらう。
30	コンテンツの疑似体験をする ・ネット上には、いろいろな危険が潜んでいるんだな？ ・ネットショッピングの時には気をつけなくっちゃ ・知らない人からのメールには気をつけよう。 ・個人情報ネット上に書き込むととても危険なんだな。		疑似体験とはいえ、ネット上に出たときには、起こりうる問題として、児童に考えさせる。「自己責任」とは？
5	学習のまとめをする ・便利なインターネットを上手に活用して必要な情報を必要なときに得られることが大切なんだな。		「危険だから使わない」の指導ではなく、便利な道具を上手に活用していく趣旨で指導したい

4. 取り組み後の子ども達の変容や成果

- ・今まで言葉は知っているけれど、どういうものかわからなかったネット上の危険について、広く浅く知ることができた。
- ・子ども以上に、保護者が疑似体験を通して、「へえ～」「怖いね」など、情報モラルについて意識を持つきっかけ作りができた。

